

(別紙 3)

福岡県における効果的な捕獲に係る新技術の地域実証評価報告
(効果的捕獲促進事業)

1 対象指定管理鳥獣の種類、技術名、実証地域及び時期

指定管理鳥獣名	ニホンジカ
技術名	誘導柵を用いたくくり罠捕獲技術の実証（ニホンジカ）
実証地域	耶馬日田英彦山国定公園
実証時期	令和 6 年 6 月～令和 7 年 2 月

注：実証地域の位置が分かる地図を添付すること。

2 現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の状況及び課題等

福岡県の耶馬日田英彦山国定公園では、平成 2 8 年度からシカの捕獲事業を継続実施しており、スレジカが発生する中でいかに捕獲効率を高めるかが課題となっている。 シカは、できるだけ障害物を避けて楽に移動できるルートを好んで利用する習性があることが知られており、「跨ぎ」や「寄せ木」などの技術はこれを利用したものであるが、いたずらに障害物を配置すればかえって捕獲効率を下げてしまう恐れがある。 そこで、耶馬日田英彦山国定公園において、これまで実施していないシカの誘導用の簡易柵を設置することで、シカの行動を制限し、捕獲効率を高めることができるのかを実証検証した。
--

3 地域実証する技術の概要

シカが防鹿柵沿いに歩く習性を利用し、漏斗状に設置した誘導柵によって広い所から次第に狭搾部に誘導するように行動を制限することで、くくりわなによる捕獲効率を高めることができるか検証し、効果的な捕獲方法について考察。 (1) 誘導柵設置 以下①～③の条件の下、添田町津野の添田町町有林内の誘導柵設置位置（図 1）に誘導柵を設置（写真 1）。 ①英彦山の北側でこれまでシカの往来が多かった谷（鞍部）。
--

②耶馬日田英彦山国定公園内に生息するシカの行動範囲〔約 0.3～0.5 km²〕。

③作業従事者にとってアプローチが安全かつ容易で誘導柵の資材搬出入や設置がし易く、捕獲個体の搬出入も容易。

（２）行動・反応の確認

誘因餌として食塩水を狭窄部に設置し、センサーカメラ 5 基を用い、誘引餌への誘引状況や誘導柵に対するシカの行動や反応等を確認（写真 2）。誘導柵周辺をシカが利用し始めたのを確認した後、くくりわなを用いて捕獲を実施。

（３）捕獲

捕獲効率の検証にあたって、捕獲は図 2 に示す 2 通りの手法で行った。

①誘導柵沿いに歩くシカの習性を利用し、誘導柵沿いで捕獲。

②狭窄部を設けることにより、シカの滞留を生み出し、無作為に捕獲。

注：実証する技術の写真や内容等の概要が分かる資料を添付すること。

4 具体的な実証の方法・内容

＜実証の方法・内容＞

①誘導柵に対するシカの行動の確認

漏斗状に 2 列からなる誘導柵を設置し、センサーカメラによる確認を行ったところ、特に 11 月から 12 月において、誘導柵沿い及び誘導柵狭窄部を通過する複数のシカを確認。

②捕獲実証実験

誘導柵沿い及び誘導柵狭窄部にくくりわな 10 基を 10 日間設置したところ、誘導柵狭窄部において雄成獣 1 頭を捕獲。

＜結果・改善点等＞

今回の検証地は、人工林で餌となる下層植生や落葉が乏しく、日当たりが良くない環境であった。そのため、シカが長時間滞在する環境に適さず、繁殖期（9 月～11 月）の利用環境として重要度が低かった可能性がある。

一方で、誘導柵周辺で複数の個体が確認されており、誘導柵狭窄部における捕獲もあったことから、令和7年度については、よりシカの利用頻度の高い環境・好適時期において再検証を予定している。

注1：2の課題等を踏まえた技術実証の方法や内容を具体的に記入すること。

注2：事業終了後の評価報告においては、注1を踏まえ、その評価結果を具体的に記入すること。

5 その他

注：地域実証に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。